

ランプ・ファン交換方法



警告



ランプ・ファン交換の際は電源を必ず切り、電源プラグを抜く(感電の原因)



注意



交換作業はランプやその周辺が冷めてからおこなう(やけどの原因)

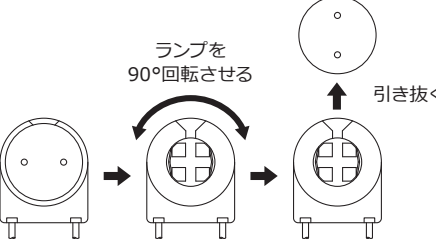
■紫外線ランプの交換方法

1. カバーを取り外す

- ☞「ご使用前の準備《紫外線ランプを取り付ける》」手順1～3参照

2. ランプを交換する

- ①ランプを取り外す
ランプを90°回転させ、上下のソケットから同時にまっすぐ手前に引き抜いてください。
- ②新しいランプを取り付ける
☞「ご使用前の準備《紫外線ランプを取り付ける》」手順4参照

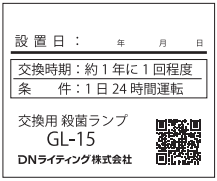


3. カバーを取り付ける

- ☞「ご使用前の準備《紫外線ランプを取り付ける》」手順5～6参照

4. ランプ交換時期ラベルを貼る

- ①古い「ランプ交換時期ラベル」を剥がしてください。
- ②ランプ交換、カバー取り付け後に新しい「ランプ交換時期ラベル」に使用開始日を記入し、本体背面に貼り付けてください。



■ファンの交換方法(交換用ファン:109S081)

1. カバーを取り外す

- ☞「ご使用前の準備《紫外線ランプを取り付ける》」手順1～3参照

2. 本体を横に倒す

- 本体開口部を上にし、本体を横に倒してください。

3. ファンを交換する(右図参照)

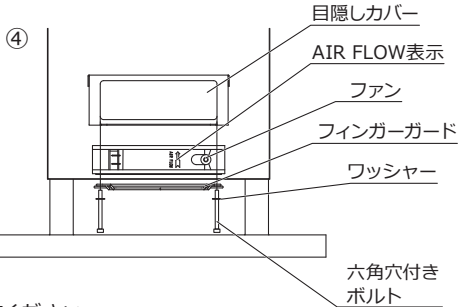
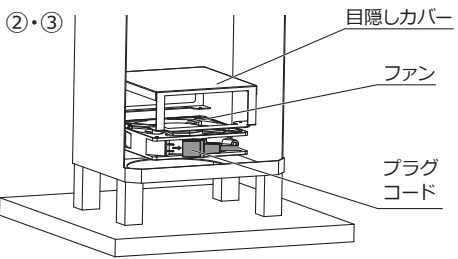
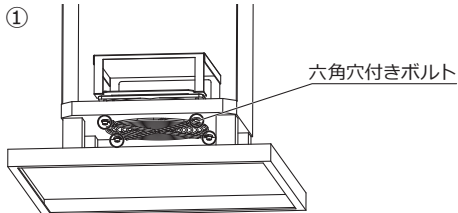
- ①本体底部の六角穴付きボルト(4本)を六角レンチ(2.5mm、別途必要)で取り外してください。
- ②目隠しカバー、ファンを本体の外側へ移動し、ファンからプラグコードを外してください。
- ③交換用ファンにプラグコードを確実に接続してください。
- ④六角穴付きボルト(4本)とワッシャーでフィンガーガード、ファン、目隠しカバーを本体へ固定してください。ファンは右図のようにAIR FLOW表示の矢印が上向きになるように取り付けてください。

4. カバーを取り付ける

- ①本体を立ててください。
- ②☞「ご使用前の準備《紫外線ランプを取り付ける》」手順5～6参照

■交換作業終了後の動作確認

- 運転を開始し、交換部品の動作確認をおこなってください。
- ☞「使いかた」参照



DNライティング株式会社

空気循環式紫外線除菌装置

くりんクリンStand
ON・OFFタイプ

GC-152S

(100V , 50 / 60Hz 共用)

お買い上げありがとうございました。ご使用前に必ずお読みください。
この説明書は製品をご使用になるお客様に必ずお渡しください。

取扱説明書

保存用

21年02月06

営業本部/東京都品川区西五反田1-13-5 : 03-3492-4460 最新の連絡先はホームページhttp://www.dnlighting.co.jpをご確認ください。

安全上の注意



警告



- 点灯中のランプは絶対に直接または間接に肉眼で見ないでください。目の痛みや視力障害の原因となります。
- 紫外線(殺菌線)を皮膚に直接または間接にあてないでください。皮膚の炎症や日焼けをおこす原因となります。



- ランプ交換、ファン交換、清掃のときは、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。
- 万一、煙がでたり、変な臭いがあるなどの異常状態が発生した場合はすぐに電源を切ってください。そのまま使用すると、感電、火災の原因となります。また、異常状態がおさまったことを確認してから工事店、電器店に修理を依頼してください。



- 器具の分解、改造は絶対にしないでください。故障、落下、感電、火災の原因となります。



- 紙や布や断熱材などでおおったり、燃えやすいものに近づけないでください。故障、火災の原因となります。
- 器具の隙間に金属類や燃えやすいものを差し込まないでください。感電、火災の原因となります。
- 器具を造営材などへ埋め込んで使用しないでください。放熱が悪くなり、故障、火災の原因となります。



注意

- 適合ランプ以外は使用しないでください。ランプ落下によるケガ、短寿命、不点灯、火災の原因となることがあります。
- 電源電圧は、AC100V±6V以内で使用してください。ランプの短寿命、不点灯、チラツキ、安定器の故障、火災の原因となることがあります。
- 屋外では使用しないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。
- 湿気や水気のあるところでは使用しないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。
- 清掃の際は、器具に水や薬品がかからないように注意してください。故障、感電、火災の原因となることがあります。
- 振動や衝撃のあるところでは使用しないでください。故障、落下によるケガ、火災の原因となることがあります。
- 引火する危険性の剪断気(ガソリン、可燃性スプレー、シンナー、ラッカーなど)で使用しないでください。火災、爆発の原因となることがあります。
- 腐食性剪断気のあるところでは使用しないでください。故障、落下の原因となることがあります。
- 粉塵の多いところでは使用しないでください。火災の原因となることがあります。

- 暖房機器、火気などの上や近接したところでは使用しないでください。故障、火災の原因となることがあります。
- 過度な荷重をかけないでください。故障、落下の原因となることがあります。
- 器具の温度上昇は収納部の容積や器具と造営材との距離に影響されますので、放熱には十分注意してください。放熱が悪いと、故障、火災の原因となることがあります。
- 誤って落下させた器具は使用しないでください。故障、火災の原因となることがあります。
- 器具の樹脂部分に塗料などを塗らないでください。樹脂部分が劣化し、故障、感電、火災の原因となることがあります。
- 点灯中や消灯後しばらくは、ランプが熱いので絶対に手や肌などを触れないでください。ヤケドの原因となることがあります。
- 取付穴をあけないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。
- ランプの取り付け、取り外しは取扱説明書にしたがって確実にこなってください。ランプの落下、火災の原因となることがあります。
- ファンの交換は取扱説明書にしたがって確実にこなしてください。故障、火災の原因となることがあります。

ご使用上の注意

- 周囲温度は5℃～35℃の範囲で使用してください。ランプの短寿命、不点灯、チラツキ、安定器の故障の原因となることがあります。
- 点灯および消灯直後にランプからの熱による金属の膨張収縮で、きしみ音が発生する場合がありますが、安全上に問題ありません。
- 性能を維持するために定期的に器具やランプの清掃や点検をしてください。
- 指定のファンを必ず使用してください。

- 清掃する際は、シンナーやベンジンなどの溶剤を使用しないでください。水または中性洗剤を湿らした柔らかい布でよく絞ってから拭いてください。
- 電源波形に歪みや変動があるときはランプにチラツキを生じたり、器具に若干のうなり(音)を生じる場合があります。
- ラジオやテレビなどの音響および映像機器の近くで点灯しますと、雑音が入ることがありますのでご注意ください。雑音が入るときは器具から1m以上離して使用してください。

1. ランプの異常

Q: ランプが点灯しません。

A: 電源コードのプラグが抜けていたり、本体スイッチが「○」になっていませんか?
点灯確認用窓から紫外線ランプが青く光っていることを確認してください。

Q: 点灯確認用窓から確認したが点灯しません。

A: 紫外線ランプが回転式ソケットに確実に取り付けられていますか?

Q: 紫外線ランプを回転式ソケットに確実に取り付けましたが点灯しません。

A: カバーの化粧ねじが確実に取り付けられていますか?

Q: カバーの化粧ねじを取り付けましたが点灯しません。

A: 化粧ねじが緩んでいませんか?
安全装置を内蔵していますので化粧ねじを確実に締めてください。

2. ファンの異常

Q: ファンが動作しない。

A: ファンのコネクタが緩んでいませんか?
ファン交換の際も、確実にコネクタを差し込んでください。

Q: ファンから異音がある。

A: 埃などが付着していませんか?
ファンの清掃をしてください。

3. その他

Q: カバーの固定ねじを紛失してしまった。

A: 化粧ねじM4×8をお使いください。

仕様

(仕様と定格は予告なく変更することがあります。)

形式	適合ランプ	本体質量(kg)	周波数(Hz)	入力電圧(V)	入力電流(A)	入力電力(W)
GC-152S	GL-15×2	7.5	50/60共用	AC100V	0.66	39.5

●本体材質:SPCC(白色塗装) ●屋内専用 ●本体寸法:幅205mm・奥行153mm・高さ790mm(台座部は300×300mm)

保守・点検

- 殺菌灯器具および関連部品(安定器・ソケット含む)には寿命があります。
- 設置して8～10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化が進行しています。点検・交換をおすすめします。
- ※使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯、年間3000時間点灯。(JIS C8105-1解説による。)
- 周囲温度が高い場合、点灯時間が長い場合は、寿命が短くなります。

- 1年に1回は、「安全チェックシート」により、自主点検してください。(弊社のホームページまたは製品カタログに掲載)
- 3年に1回は、工事店等の専門家による点検をお受けください。
- 点検せずに長期間使い続けると、まれに、発煙・発火・感電などに至る恐れがあります。

各部の名称

